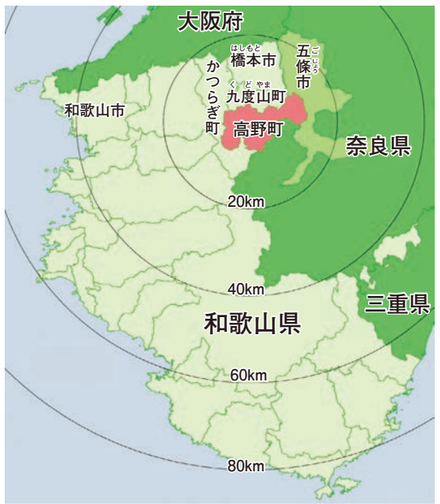
第１章　わたしたちのまち　高野町

高野町のすがた

高野町の位置と広さ

わたしたちがくらす高野町は、和歌山県の北東部にあって、東経135度35分、北緯34度12分の位置にあります。面積は約137㎢、東西22km南北12kmの広がりをもっています。



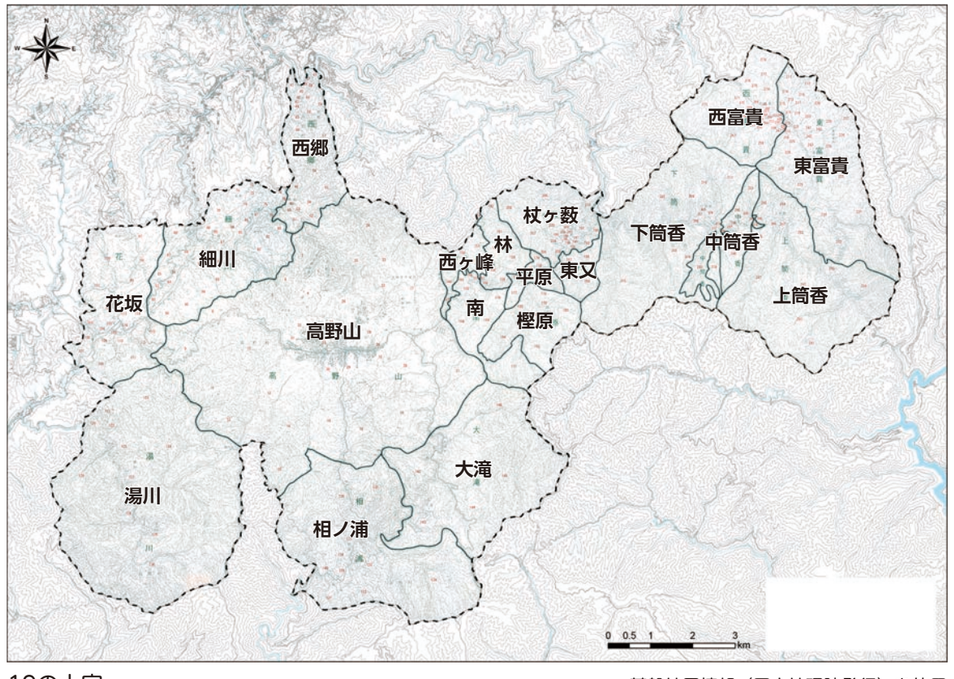
高野町の位置

地図で見る統計（jSTAT MAP）をもとに作成

19の大字

山に囲まれた高野町では、昔から山の斜面や谷川に沿って集落がたくさんありました。それらは現在、19の大字にまとめられています。

高野山　西郷　細川　花坂　湯川　相ノ浦
大滝　西ヶ峰　南　林　平原　樫原　杖ヶ薮
東又　東富貴　西富貴　上筒香　中筒香　下筒香



19の大字

基盤地図情報（国土地理院発行）を使用

高野町の周辺

高野町が位置する和歌山県北東部は、伊都地方と呼ばれます。伊都地方は大阪府と奈良県に隣り合い、伊都郡（高野町、かつらぎ町、九度山町のまとまり）と橋本市からなります。

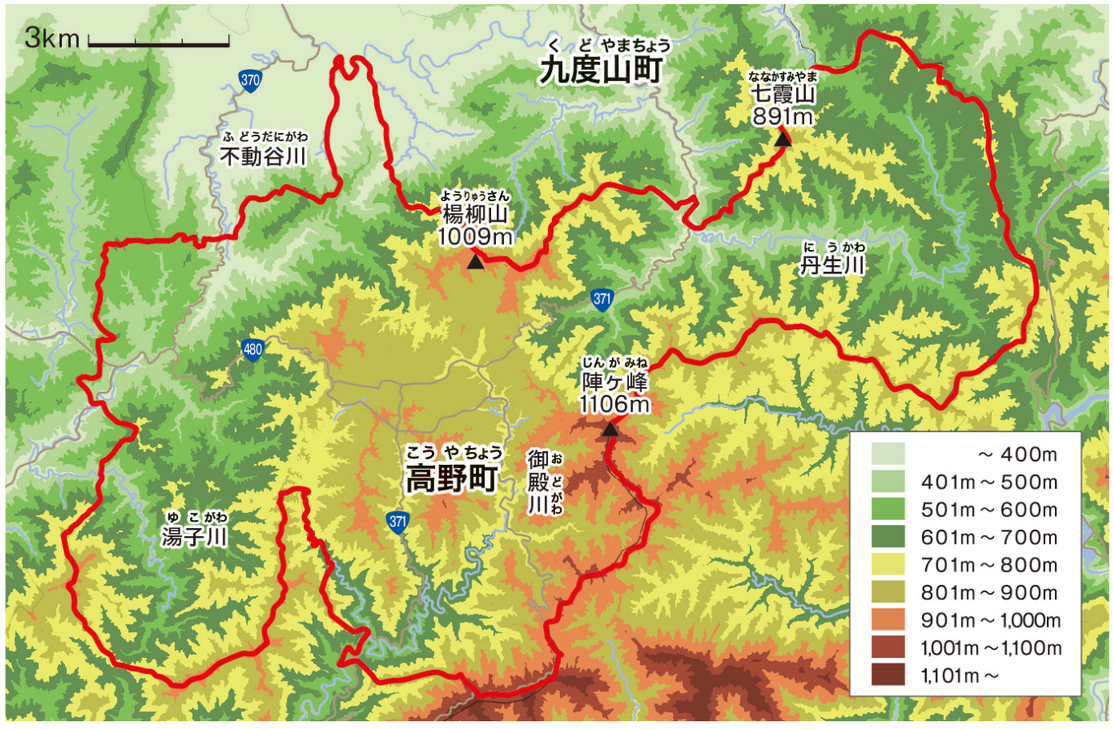
高野山駅から和歌山市や大阪市へは、ケーブルカーと電車で約２時間かかります。

富貴は、奈良県に突き出たような位置にあり、奈良県五條市まで自動車で約30分、バスで約50分かかります。

土地のようす

高野町の土地の70.6％（96.7㎢）が標高600m以上の高地で、最高峰の陣ヶ峰をはじめとする標高1,000m前後の山やまが町の境界に沿ってあります。山の間を流れる川がいくつもの渓谷を作っています。

高野山地区は、標高800～850mの台地状の高地にあり、富貴地区も標高約600mの富貴盆地の一部にあります。



地形図

国土地理院地図

高野町の地層の大部分は、日高川層群に属し、岩質は砂岩や堆積岩で構成されています。

北西部の一部は三波川帯に属します。この辺りの変成岩は、鎌倉、室町時代に一石五輪塔などの石材として使用されました。

結晶片岩（変成岩の一種）製の一石五輪塔

和歌山県の岩石分布のようす　和歌山県ふるさと教育副読本「わかやま発見」和歌山県教育委員会

＊日高川層群……四万十帯と呼ばれる１億年前から2,500万年前にできた地層の部分
＊堆積岩……砂や泥、生物の遺がいなどが積もってできた岩石
＊三波川帯……四万十帯より古い時代にできた地層

河川のようす

高野町の川は、山の間を東西南北へ流れています。

東部の丹生川、北部の不動谷川、西部の湯子川は、北の方向へ流れて紀の川へと流れ込みます。また、楊柳山を水源とし、有田川の上流となる御殿川が、南の方向へ流れています。

高野三山
摩尼山、楊柳山、転軸山

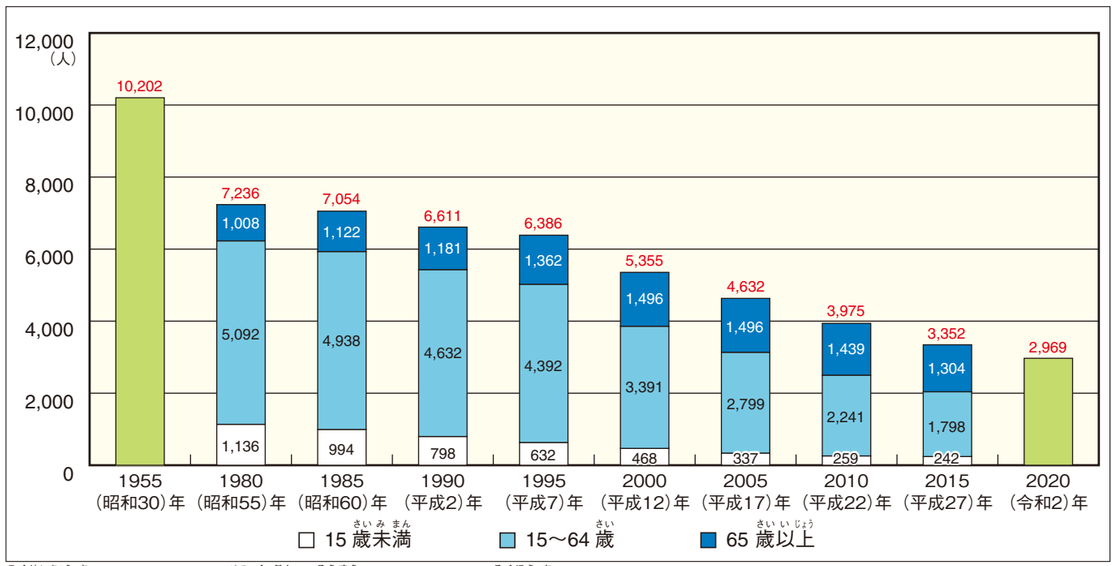
水系図　国土地理院地図をもとに作成

高野町の人口と土地利用

人口の移り変わり

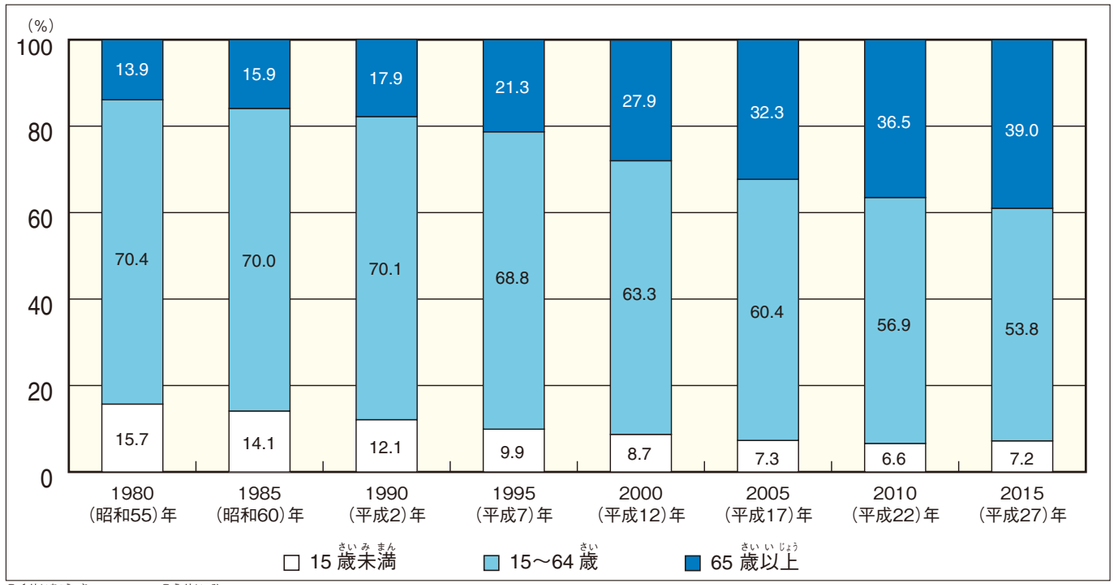
1955（昭和30）年の国勢調査人口の総数は、10,202人でした。25年後の1980（昭和55）年には約3,000人減少して7,236人、2000（平成12）年には5,355人、2020（令和２）年には2,969人と減少しています。

2010（平成22）年以降、いずれの年齢層でも減少しています。



国勢調査　人口の年代別区分と総数（令和２年は速報値）

※総数は年齢「不詳」を含む。

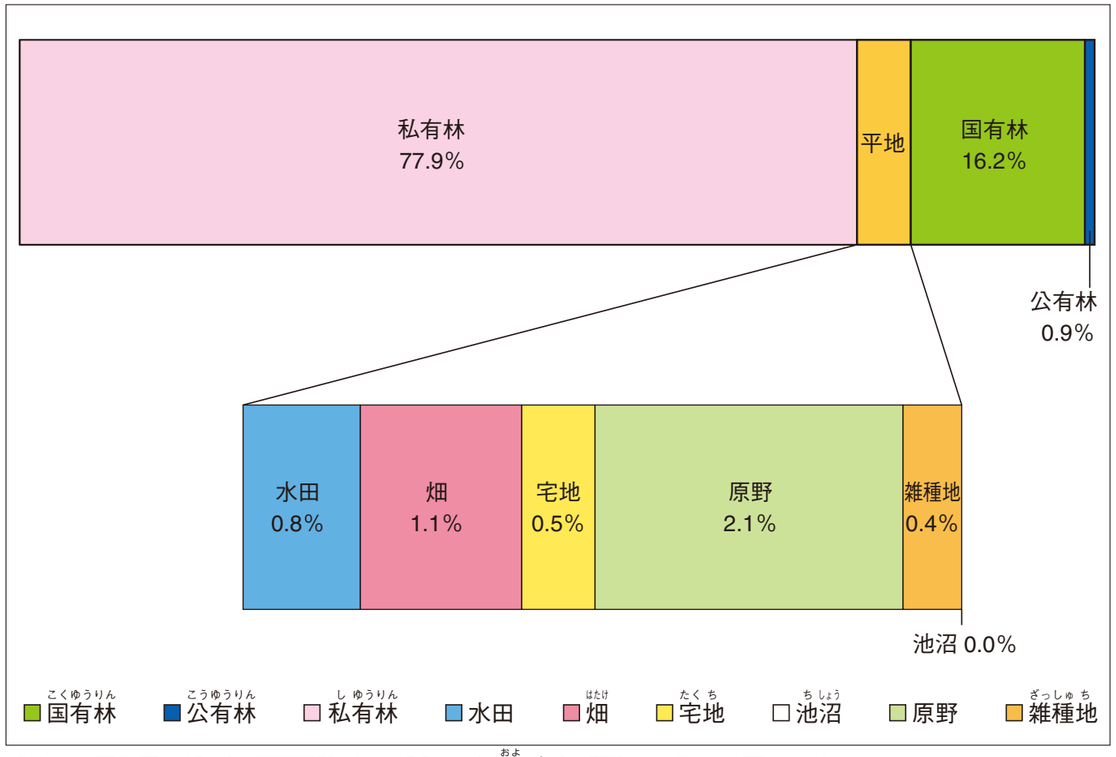


国勢調査　人口構成比

※割合は分母から「不詳」を除いて算出している。

土地利用

高野町の総面積の約95%が森林で、平地はわずか約５%です。そのうち、約２%が農耕地に使われ、0.5%が宅地に使われています。



資料：高野町固定資産税概要調書（平成29年度）及び「高野町森林整備計画」を参考にした。

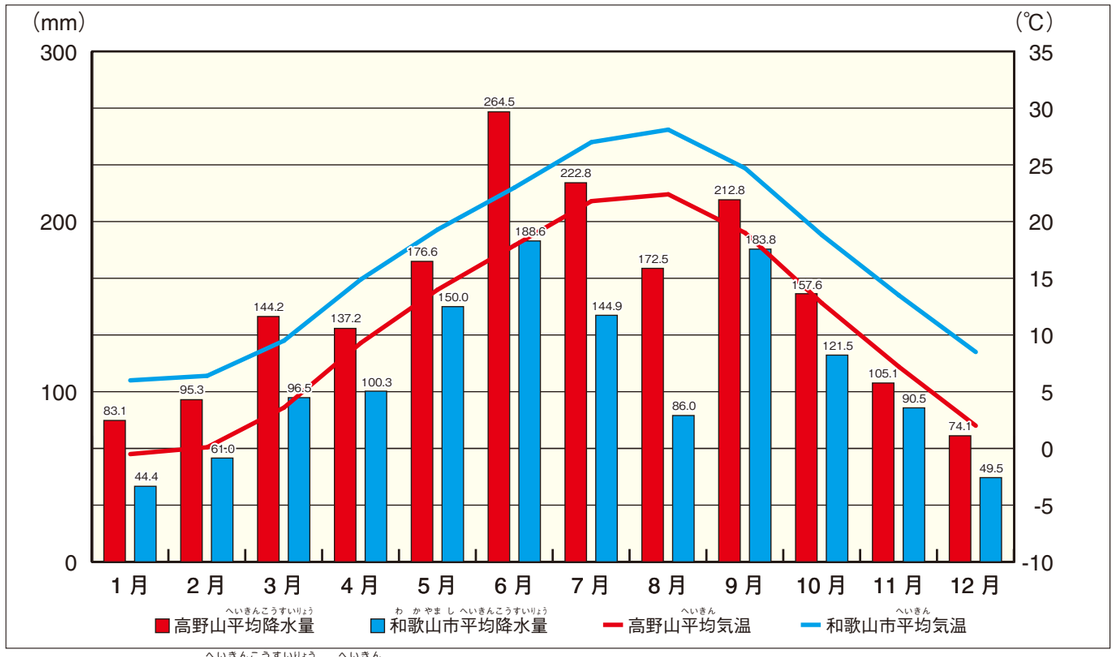
※小数点第２位以下を四捨五入しているため、計は100%とはならない。

高野町の自然

四季の変化と降水量

高野町は内陸性の気候で、夏と冬、昼と夜の気温差が大きいです。

特に高野山は標高が高く、山やまに囲まれていることから、平均気温は紀の川周辺の地域より５℃ほど低く、冬の寒さは厳しいです。



高野山と和歌山市の平均降水量と平均気温（1981－2010）

高野山の冬は、降雪も多く例年10～20㎝の積雪があります。春の訪れは遅く、３月下旬からようやく気温が10℃を超えます。夏は、湿度が高く、急な天候の変化によって大雨になることもあります。年間降水量は、全国平均（約1,700mm）と比べても多く、約1,850mmになります。

10月中頃から朝晩は冷え込み、紅葉が進みます。その色鮮やかな景色は大変美しいです。

壇上伽藍（蛇腹路）の紅葉

コウヤマキ

コウヤボウキ

高野山で使われたホウキ→

コウヤカンアオイ

「高野」の名を持つ植物

コウヤマキは「町の木」として知られています。生きている木は火に強く、材になれば水に強いといわれ、火災から寺院を守るために境内に植えられました。また、材木は寺院の建築材や水桶、風呂桶など、生活用品にも使われ、枝や葉はお供え物になります。

コウヤボウキは、根元からたくさん出た枝が細くて堅くなります。昔、高野山の寺院では、この枝を束にしてほうきを作りました。そこからコウヤボウキという名前が付けられました。

コウヤカンアオイは、高野山で発見された植物で、高野山や周辺部の山地に自生しています。葉がアオイに似ており、冬でも枯れない常緑多年草であることから、「高野寒葵」と書かれます。

ほかにも、コウヤミズキ、コウヤワラビ、コウヤノマンネングサ、コウヤコケシノブ、コウヤハンショウヅルなどのように、高野山で発見されたり、高野山の環境条件が適して繁殖したりしていることから、「高野」の名前が付けられている植物がたくさんあります。

一度、名前が高野山に由来する植物について、くわしく調べてみましょう。

コウヤミズキ

コウヤワラビ

コウヤノマンネングサ

コウヤコケシノブ

コウヤハンショウヅル

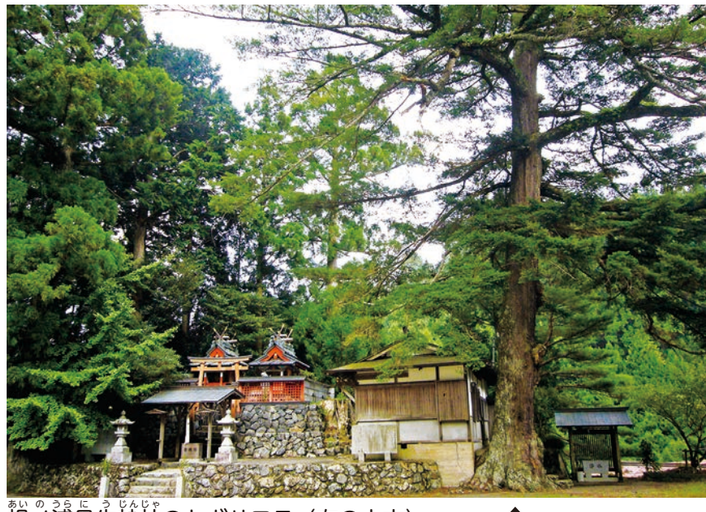
高野六木

コウヤマキ、ツガ、モミ、スギ、ヒノキ、アカマツの６種の常緑針葉高木を「高野六木」といい、寺院の建築材として大切に育てられてきました。奥之院へ向かう参道の両側に立ち並ぶ大杉林は、和歌山県指定の天然記念物です。

高野町公式キャラクター「りくぼくちゃん」

トガサワラは、マツ科の針葉樹です。紀伊半島と四国の一部にだけ分布している日本固有種の木です。古代に繁栄したと考えられ、「生きた化石植物」ともいわれています。相ノ浦丹生神社に、このトガサワラがあります。

大杉林（奥之院の参道）



相ノ浦丹生神社のトガサワラ（右の大木）

高野町で生息する動物たち

哺乳類

ムササビ

高野町の山には、ムササビ、モモンガ、アナグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ホンドリス、イノシシ、ホンドキツネ、ニホンザルなどが生息ています。ムササビは夜になるとマントを広げるようにして飛んでいきます。ニホンカモシカは、国の特別天然記念物に指定されています。

モモンガ

アナグマ

ニホンジカ

ニホンカモシカ

ホンドリス

イノシシ

ホンドキツネ

ニホンザル

鳥類

高野町では、シジュウカラ、ヤマガラなど、山野に住む小鳥の仲間やフクロウを見ることができます。春から初夏のころには、ツバメやカッコウをはじめ、美しい色をしたオオルリ、キビタキなどの夏鳥を見ることができ、秋には北方から来るウソ、アトリ、マヒワなどの冬鳥も見ることができます。

ブッポウソウ

昔、高野の霊鳥として詩や歌によまれたブッポウソウは、美しいすがたの夏鳥で、「ブッポウソウ」と鳴くと思われていました。ところが、その鳴き声は、フクロウの仲間のコノハズクだとわかりました。その後、ブッポウソウを「すがたのブッポウソウ」、コノハズクを「声のブッポウソウ」と呼ぶようになりました。

コノハズク

しかし、森林伐採が激しかった昭和30年代から、高野山ではすがたを見かけなくなりました。

両生類、は虫類

両生類ではブチサンショウウオ、オオサンショウウオ、モリアオガエル、は虫類ではニホンヤモリ、ニホントカゲ、毒蛇のヤマカガシ、ニホンマムシなどが生息しています。

オオサンショウウオは、国の特別天然記念物に指定されています。

また、モリアオガエルは、和歌山県のレッドデータブックの中で「準絶滅危惧」に分類されています。

オオサンショウウオ
（1931（昭和６）年）

モリアオガエル

モリアオガエルの卵塊

特別天然記念物
天然記念物のうち、世界的にまた、国家的に価値が高いとして、文化財保護法により指定されたもの。保護、保存がより徹底される。

レッドデータブック
野生生物が絶滅しないように保護を進めていくため、絶滅のおそれがある野生生物の種類やその原因などをまとめた本

準絶滅危惧
現時点での絶滅危険度は低いが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」となる可能性がある種

魚類

高野山では、タカハヤ、アメノウオ、下流になるとカワムツが多いようです。奥之院御廟橋の下を流れる玉川には、背中に斑点のあるタカハヤが泳いでいます。この斑点は、魚が串ざしにされて焼かれようとしていたところ、空海に助けられ、そのときの串の跡だといわれています。

タカハヤ

アメノウオ

カワムツ

昆虫類

夏になると、クヌギやコナラなどの木にカブトムシやミヤマクワガタ、スジクワガタなどがいます。夜には、紫外線を出すけい光灯や水銀灯などに集まることもあります。昔、高野山ではクワガタの雄を「げんじ」、雌を「へいけ」と呼んでいたそうです。

カブトムシ

ミヤマクワガタ

スジクワガタ

資料

四季おりおりの花や風景

高野山は標高が高いため、ふもとの地域よりも気温が低く、サクラは４月中旬頃から咲き始めます。

５、６月の新緑の頃には、心地よいそよ風とともに、若葉や町の花「シャクナゲ」を始め、色とりどりの草花が咲きます。この頃の高野山は植物の彩りが大変美しいです。

夏が短く秋の訪れが早い高野山。10月中旬になると、モミジやイチョウが赤色や黄色などに色づき始め、秋本番を迎えることになります。11月中旬頃まで、暖かい色に染まった山やまの紅葉を味わうことができます。

冬になると雪が降り、辺りは真っ白な雪化粧となります。観光客は日頃と違う風景を楽しんでいます。

このように四季おりおりの花や風景は、高野山ならではのものです。このすばらしさをみなさんも味わってみましょう。